日刊 動労千葉
86. 9. 8
No.2345
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

裏切り者＝行方富士夫・井上宙丈

革マル「真国労」や動労革マル＝「改革労協」と運命をともにするという

断じて許さないぞ！

「自分だけは」と延命をこう抜けがけ組織「協議会」

「人を蹴おとしてでも自分だけは生き残りたいと『千葉鉄道技能人協議会』なるものをデッチ上げた裏切り者、行方富士夫・井上宙丈らは、八月二一日の『全国鉄道協議会連合会』結成に加わり、当局と「労使共同宣言」を結んでいる動労革マルや鉄労などと徒党を組み、動労千葉・国労破壊を自分から買ってでてきたのである。『協議会』などと労組を名のらずとも、自分だけは助かろうという抜けがけ組織など断じて許せない。

ブチ壊してきたのは当局

『協議会』は結成大会で「正常な労使関係の維持で組合員の雇用を守る」方針とともに「労使共同宣言を当局と結んでいる各組合と連帯し、共同歩調をとる」などをも決定したという。

当局にゴマをすることが正常な労使関係などと認識している四組合『改革労協』や『協議会』はさて置いても、この間、決まってもいない分割・民営化の既成事実の積み重ねを当局は行ってきた。それは、団体交渉にもまともに応じようともせず運転保安をも無視した合理化を強行、削減のみを目的にした要員削減のあげく余剰人員などと人材活用センターへ送り込んできたのだ。

そもそも「正常な労使関係」を一方的に破ってきたのは国鉄当局ではないか。

"裏切り者"の烙印は消えない

断じて許せないことは「動労革マル・鉄労・真国労・全施労などと手を組んで動労千葉破壊をやろう」ということだ。

動労革マルら四組合で結成した『改革労協』は、当局に対し労使協調の新たな証として組合自ら求め「新会社の黒字になるまで争議権の行使を自粛する」とした『第二次労使共同宣言』を結んだ。

動労革マル・松崎は「ダメな労組国労をいじめぬき、消えてもらう」と全施労大会で叫んだ。これが労働組合の委員長・松崎の発言なのだ。

行方富士夫や井上宙丈がこんな連中と運命をともにするのは勝手だが、われわれは組織破壊・分裂を手をこまねいて見過すわけにはいかない。

仲間が首をかけて必死の気持ちで首切りに反対し、仲間と、家族と一緒になって闘っている時、逃げだし、仲間を売りわたす者など絶対に許しはしない。

マンガ 211 津田沼
1986年8月19日
動労千葉 津田沼支部

裏切りはてた裏切り分子、行方富士夫（なめかたふじお）を許すな！

デッチあげマル生組合＝『千葉鉄道技能人協議会』解体！

8月11日、局員581人によって、「千葉鉄道技能人協議会」なる、マル生組合がデッチあげられた。

現在、当局は分割・民営化に、局員をなだめ、マル生分子をつかって、「新労組」の旗あげを次々と画策している。これはどれも、労働組合とは名ばかりで、分割・民営化―10万人首切りを強行するためにデッチあげられた御用のマル生組織である。否、それはばかり、当局は、動労千葉や国労を破壊し、切り崩すためにこそ、これらの「労組」をデッチあげたのだ。すでに、東京三局はじめ、当局自ら、「不当労働行為は承知で国労を切り崩せ」と号令をかけ、当局・動労革マル・二セ国労・鉄労、そして、「東京鉄道運転者協議会」なる、新たにデッチあげ「労組」が、一体となって、国労の仲間におそいかかっているという。

われわれは、「千葉技能協」など断じて認める訳にはいかない。10万人の首切りに手をかして自分だけ生きのびようとするなど、労働組合ではない！ 即刻解体せよ！

主謀者行方を許すな！

しかも我々は、行方富士夫が、マル生組合デッチあげの主謀者となり、「副委員長」になっていることを断じて許すことができない。行方は、オ一派と当時、津電指導運転士であり、支部組合員でありながら、ストライキから逃亡し、更にその後、組合員の怒りの声からのがれて高給取に逃げだした裏切り分子である。仲間が首をかけて必死の気持ちで首切りに反対して闘っている時に、自分の身かわいさだけで逃げだし、それでもケロリとできず、当局の足下に奴隷のようにひれふして、仲間の首を売って生きのびようとするなど、あきれかえった破廉恥分子だ！ 人間性のかけらすら失った何というあわれな人物だ！ 行方いわく、公休を返上して出勤するのが「方針」なのだという。断じて行なえ許すな。裏切り分子をたたき出せ！